

ぎやらりー わ

NO. 58

2012年4月号



●花の村内散歩 菜の花
馬場公苑付近

編集・発行 NPO法人グループわ (西田圭一) ホームページ <http://www.wa-net.jp>
〒651-1102 神戸市北区しあわせの村シルバーカレッジ内 TEL078-743-8101 FAX743-3830



花実の森で遊歩道作りに精を出すメンバー (3月15日)



花実の森で遊歩道作り



カレッジ北側の里山「花実の森」で3月15日から遊歩道作りが始まりました。グループ〈わ〉が一带の整備に取り組んで2年目。遊歩道は3本計画され、1本目はカレッジ東側の倉庫付近を起点に山頂まで約200mの東ルート。45度はあろうかという急斜面に杭を打って、幅80cm程度の横木を固定。その上に、小枝を細かく砕いたチップを撒いて道にしていきます。かなりの難作業なのでメンバー15人はぐったり。この日は30mほどで作業終了。4月中には完成するという事です。「里山や緑が好き」という仲間によって〈四季が楽しめる遊歩道〉の整備が進んでいます。(広報・南形徹) (6面に連載「育ちゆく花実の森」①)



ボランティアの
輪をひろげよう

58
号の
内容

東北支援活動もう1年継続 2・3面

〈わ〉の表彰会員決まる	4面	ボランティアの心	前田仁子	8面
親子うどん塾を訪ねて	5面	カレッジだより		9面
区会活動リポート	7面	カラーグラフ花山梅林で植樹		12面

5月17日に
「わ」の総会

[目次の頁へ](#)

1

[次頁へ](#)

もう1年、顔の見える東北支援を

グループ〈わ〉は、2月7日の理事会で東北支援活動をさらに1年間継続することを決定しました。西田圭一理事長は「昨年は、2回にわたってチームを派遣。」顔の見える交流“をやってきた。今後もグループ〈わ〉の総力をあげて息の長い支援を続けたい」と決意を述べました。

オールKSCで

〈わ〉の東北支援活動は、大震災直後の3月20日からプロジェクトチームで救援募金を始め、約60万円を神戸市に寄託。その後は農機具類・農薬・種子などを70万円で購入し、〈わ〉の提携先である宮城県大崎市のNPO田んぼに寄贈しました。

7月には第1次支援チーム17人を南三陸・大崎市・登米市に派遣。田んぼのガレキ除去作業をしたほか、児童センターなど5か所を訪問して交流会を実施してきました。10月には第2次支援チーム15人を派遣。女川町・石巻市・名取市・東松島市の仮設住宅・幼稚園・小学校・児童センターなど11か所で慰問活動をしてきました。12月には東浜小と女川第四小の子供たちを神戸に招きルミナリエなどを楽しんでもらいました。お正月には7月と10月に訪問した15施設にプレゼントを届けました。

こうした支援活動は、〈わ〉の東北支援プロジェクトチームで具体策を練り、会員や現役に協力を呼びかけ“オールKSC”という形でやっています。募金や救援物資は会員・区会・サークルなど多くの方々の賛同で成果があがっています。派遣に際しては昔遊び研究会・マジック同好会などの全面的な協力が得られています。派遣メンバーにも現役の皆さんが率先して加わってくれています。おかげでこの1年間、ささやかながら“他のために”の校是を実践することができ、被災地の子供たちや仮設にお住いの皆さんに喜んでもらうことができました。

●サポート募金のお願い

東北被災地へ支援を続けるための活動募金にご協力ください。1口1000円。個人でも、区会、サークル単位でも構いません。わ本部へご持参いただくか、郵便振替で送金してください。ご賛同者の氏名などは、「ぎゃらりー わ」に順次掲載します。会員の皆さまには、お願いの手紙と振替用紙を58号に同封しています。



一方、1・2次チームが訪れた被災地の幼稚園・児童センター・小学校などからは「グループ〈わ〉のみなさん。遊んでくれて、おみやげもくれて、ありがとう」のメッセージカードや折り紙・竹細工などが続々と届き、〈わ〉と子供たちとの絆を実感しています。（=写真は10月19日、名取が丘保育所で）

新年度から東北支援プロジェクトは、西田圭一（理事長・生11）芦田義和（リーダー・生15）南形徹（広報・生14）海野龍英（幹事・食16）大澤貞男（生13）波多野武郎（食16）古後健一（福18）の計7委員が中心となり進めることになりました。

活動助成金 2件申請

今後の活動については、3月6日の理事会で「年末に申請した助成金は選外になり、4月に支援チームを派遣できなくなった。新たに2件の助成金を申請しており、パスすれば7月と10月に第3次・第4次チームを派遣したい」との報告があり、メンバー・内容面とも1・2次とは違った形で実施しようとプロジェクトチームで具体策を急ぐことになりました。

現役と合同で募金活動

新入生を対象にした支援活動募金などは、現役のボランティアセンターと共同で実施することになり、入学式から4日間（4月6・9・10・11日）ロビーに募金箱を置いて協力を呼びかけました。

（広報・南形徹）

交流の芽を育てよう

東日本大震災からちょうど1年の3月11日、仙台市を訪問して東北大学の大震災追悼式「阪神・淡路から東日本へ、そして心ひとつに」の催しに参加してきました。同行者は、竹の台小の西馬和男校長と名谷小、本山第一小の先生2人でした。兵庫県立長田高校の合唱や歌手の高石ともや、五木ひろしの歌で会場は盛り上がりましたが、2人は毎年、神戸の慰霊祭にも参加され、東日本の被災地でもボランティアの音楽活動を活発にされているようです。

私たちグループ〈わ〉は、昨年2度にわたって東北を訪問、石巻・東浜小、女川第四小の子供たちを神戸に招待しましたが、支援活動が一過性にならないよう今後も継続していく覚悟をあらためて決意した次第です。

翌12日には、秋に招待した東浜小・女川第四小を訪れ、子供たちの元気な姿を見て安堵しました。東浜小の角田校長は「子供たちは神戸から帰って一段とたくましくなりました」と喜んでおられた。また、思い出文集には多くの子どもたちが「神戸の子と友だちになれた。一緒に話したり、遊んだ



りして楽しかった」と綴っているとの話も聞きました。やはり、子どもは子ども同士のつながりが一番大切であると認識し、今後の活動に生かしていきたいと思いました。

今回の訪問で、神戸と東北の小学校の交流の輪が神戸5校（竹の台、藍那、樫野台、名谷、本山第一）、東北4校（東浜、女川第一、二、四）と大きく広がりました。折角の機会なので、交流の芽が大きく育つよう、努力したいと思います。

＝写真＝東浜小では子供たちが獅子舞で歓迎してくれた

（理事長・西田圭一）

グループ〈わ〉が東北体験発表

〈東北大震災の絆〉をテーマに「ひょうご食のシンポジウム」が3月10日、150人が参加して農業会館（中央区）で開かれ、グループ〈わ〉も東北支援体験を発表しました。午前中はNPO田んぼ（大崎市）代表・岩淵成紀氏の基調講演。「津波の年は作物のできがいい、との言い伝えがある。海の養分が流れ込み、土壌の回復力がアップするからだ。田んぼに冬の間水を張る〈ふゆみず田んぼ〉にすると、イトトンボなどの生き物が増え肥料がなくても稲が育つ。自然の力はすごい。津波もマイナス面ばかりではなく、田んぼ作りにとっては〈津波との共生〉という考え方も大切。田んぼの再生は人々に希望を与える」といったユニークな内容でした。

〈わ〉の発表は支援チームの道満俊徳氏。これまでの活動内容を簡単に説明した後、メンバー3人の感想文を読み上げ、第1次チームの記録ビデオ「震災ボランティア奮闘」を上映。大きな拍手をあげました。岩淵氏は、〈わ〉の第1次チームがお世話になった人。私たちがガレキ運びをした田んぼも再生され、田植えを待つ状態だということです。同シン

ポジウムは、兵庫県の農業関係者やカレッジの保田茂先生らが開催したもので、〈わ〉の支援チームメンバー13人が参加しました。

●東北ビデオ第2部完成 昨年10月に派遣した東北支援第2次チームの記録ビデオ（18分）が完成しました。区会や部会の会合でご活用ください。

サポート募金賛同者・グループ

昨年10月から開始した東北支援活動の資金に充てる〔サポート募金〕の賛同者の氏名・団体名は次の通りです。（敬称略・受付順）

【24年1月1日～3月31日分】 飯川泰郎（国12）千円、楽遊クラブ銀雅（銭太鼓）4515円、フォークダンス部1万円、黒崎幸雄（生11）3500円、久保麗子（生12）千円、久保知彦（生8）千円、海野龍英（食16）1万円、大垣廣司（生15）500円、増井英治（健17）2千円、こうべ環境未来館4416円、横井幸雄（福11）5千円、安澤真由美（音10）3千円、榊原惇一（生7）3千円、小畑章（福11）千円、13期ヒヨコ会2万円、上野堯（園6）2千円、グループわ有志1400円、岸本吉史（福14）1500円、林敬子（国13）1500円、16期美工（北宏美・山下登俊・岡崎勲・小林誠一）8千円、食のシンボ有志1250円、環境未来館4152円、久保正志（国14）5千円、岩田一子1200円＝計9万5933円。

24年度の表彰会員・団体決まる

グループ〈わ〉の24年度功労会員1人・団体3グループが決まり、5月17日の総会で表彰されることになりました。会員は飯川泰郎（国11）さん。グループは英語点字・神港園整髪・花山梅林会です（別表）。

【功労会員】

飯川泰郎（国12）＝登校の学童見守り7年

【功労グループ】

英語点字G＝点字翻訳本を東南アへ寄贈

神港園整髪G＝入所者の入浴後の介助

花山梅林会＝小学校裏に梅林を育て8年

区会・部会・個人から推薦のあった会員1人・団体7グループを対象に理事と運営委員長（計28人）が投票。活動歴や活動内容の審査を経て、4月3日の理事会で正式に決まったものです。有権者は理事・区会長・部会長ら計36人で、うち病欠・棄権は8人。連記制で28人が投票しました。

表彰制度は、22年度から始まったもので3回目。昨年まで「優秀会員表彰」としていましたが、今回から名称を「功労会員表彰」に、表彰対象を原則、会員2人・団体2グループにしました。「活動はグループでやることが多いので、団体に比重を置くべきだ」との提案があり、規程を変更したものです。ところが、今年度は投票の結果、2、3位の得票が同数だったため3団体を表彰することになったものです。

【表彰会員・団体の活動内容】（敬称略）

▼飯川泰郎（国12）＝KSC在学中の平成18年から、北区の北五葉小学校（460人）で登校する学童の見守りを続けて7年。「おはよう」の声掛けと交通ルールの実践教育をおこなって、学校長・PTA会長・学童から感謝状を贈られている。昔遊び研究会の北区リーダーとしても、児童館などへ積極的にでかけ、子供たちに喜ばれている。北区会運営委員全員の賛同があり、推薦する。（推薦 北区会・笹内孝一）

▼英語点字グループ（代表・今田紘、在籍9人）＝日本や海外の英訳本を点字翻訳して印刷物に仕上げ、東南アジアの盲人協会・点字図書館・盲学校などに寄贈する活動を11年続けている。「日本昔話」を皮切りに「銀河鉄道の夜」「ハリーポッター」「宝島」「ムーミン」など115作品をKSC点字グループと共同で翻訳。ネパール・ブータン・ミャンマー・タイ・フィ

リピン・マレーシア・スリランカなど10か国16施設に寄贈。スリランカ・ブータン・フィリピンから感謝状が贈られている。＝推薦 国際部会・柳川瀬淳一
▼神港園整髪グループ（代表・淡路忠義、在籍10人）＝しあわせの村内にある老人福祉施設・神港園で入所者の介護を続けて10年目。入浴後にドライヤーで髪を乾かす整髪が主な役目だが、水分補給や食事の世話のお手伝いもしている。入所者・サービス利用者約30人を対象に週2日程度活動しているが地味で根気のいる作業の連続で、強い意志がないとできないボランティアだ。＝推薦 北区会・笹内孝一
▼花山梅林会（代表・塚本桂三、在籍32人）＝北区花山小学校の通学路にもなっている裏山で、梅林の整備を手掛けて8年目。毎年100本ほど植樹しており、今年で800本になった。6年生の卒業記念植樹は学校行事にもなっており、観梅会や梅ジュース作りも好評。「神戸一」の梅林をめざして、学校も地域も会員も一体となって努力している。昨年秋には神戸市環境奨励賞を受賞。＝推薦 北区会・笹内孝一

【推薦のあった他の団体】

▼野鳥と自然観察会（代表・茅中英一、在籍54人）＝推薦・菅田忠志
▼里山和楽会（代表・道満俊徳、在籍19人）＝推薦・茅中英一
▼食育支援グループ（代表・富永征児、在籍10人）＝推薦・長谷川博
▼竹の台学童見守隊（代表・井内祐一、在籍5人）＝推薦・水野俊夫

5月17日に〈わ〉総会

NPO法人グループ〈わ〉は24年度総会を5月17日（木）に開催します。多くの皆さまの出席をお願いします。

午前10時から総会。昼食をはさんで、午後は功労会員表彰式と東北支援報告会があります。報告会は西区竹の台小・西馬和男校長の講演と1次・2次支援チームの記録ビデオ『震災ボランティア奮闘』（約40分）の上映を予定しています。総会資料は『ぎゅらりー わ』58号に同封しています。総会出欠のご返事は、弁当注文の関係で5月7日（月）までをお願いします。

うまい!? うどん作ったよ

ボランティア
最前線



⑤ ああ、カいっばいなるのよ。
④ 先生夜の食文11期の皆さん

親子うどん塾

グループ〈わ〉の「手打ちうどん塾」が2月18日、シルバーカレッジ調理室で開かれ、取材をかねて参加しました。スタッフは食文11期の有志12人。1週間前にはリハーサルを済ませ、この日も朝9時から下準備にかかり、やる気満々です。

午前10時、エプロン姿の家族ら40人が8グループに分かれ、調理台前に集合。「さあ、手を洗って始めようか」。荒木洋さんのかけ声で、代表の井上美津子さんが手順を説明。グループごとに早速、作業がスタートしました。1人分100グラムの粉に水と塩を少々。少しずつ混ぜ合わせて十分に練ります。うどんは、コシがうまさの原点。力があるので子供たちも真剣です。おっと、水が多すぎ、ベタベタのグループがあります。

あわててスタッフが粉を補充。なんとか、うどん生地が出そろったようです。

生地を寝かせること30分。今度は麺棒を使って、のばす作業です。これは子どもたちも中々上手。程良い厚さになったところで、生地を包丁で細く切っていくのですが、なかなか難しい。「ちゃんと切れていない」「あ〜太くなっちゃった」。これを沸騰したお湯の中で7〜8分茹でてやっとなでできあがり！。どんぶりに盛って、スタッフが用意したおツユをかけ、かき揚げをのせて…「いただきます」。奮闘

2時間、できたてのカキ揚げうどんを試食します。「わあ、おいしい」。どのテーブルからも笑顔と歓声が弾けます。太くても、細くても、冷たくなっても、自分で作ったものは格別ようです。

「後片付けや洗い物もきちんとしましょうね」。子供たちへの目配りもきっちり。チームワークの良さがめだちます。

うどん塾は今年で4回目。現メンバーは、男性2人、

女性12人の計14人。井上代表は「昔ながらの家庭料理を知ってほしくてやっています。仲間がいる間はできるだけ続ける」と、身近な食材で、手軽な調理法を教えているそうですが、「きょうは水の分量を間違えてしまった」と反省しきりでした。

この日のスタッフは、井上・荒木さんのほか、畑田良榮・井谷豊子・井上美保子・榎本延代・及川尋子・長田八千穂・来田多恵・胡間恵子・塩崎敏江・中村信子の皆さん。

取材を終えて「うどん打ち」を初めて体験。「はたしてどんな出来上がり？」と心配でしたが、コシのある美味しい麺が。「自宅でも作ってみよう」という気持ちになりました。ただ、初めて体験する人たちのために、事前にレシピを配っておくと、より分かりやすいと思いました。

(広報：井口久美子 写真：武富利美)



育ちゆく 花実の森 ①



四季が楽しめる里山に

「花実（はなみ）の森」活動1年目の22年度は準備に明け暮れた年であったが、2年目となる平成23年度は実動開始の年となった。

前半は安全講習会や勉強会・企画会議を重ね、後半には企画会議の方針に沿って実動作業に入った。特別活動日を除き、当面は月1回の活動日を毎回20名前後のメンバーの参加を得て進めている。伐採木と保存木の仕分け・伐採木の伐倒・切り出し、絨毯のように茂った笹など下草の刈り取りをはじめ、しあわせの村からの要請を受け「しいたけ栽培用ほだ木200本」の提供なども完了した。踏み込むのもままならなかった所にも作業道が出来始め、少しずつ整備のあとが見えてきた。そのあたりこの春には、コナラの芽吹きが陽光に映え、山肌に届いた日差しが長い年月眠っていた野草の目覚めを誘ってくれるこ

とだろう。ササユリやオケラ、キンランやジュンラン、秋のいろいろな木の実など四季を通じて楽しませてくれる里山に戻してくれることを確信しながらこれからも活動を続けていこう。

このあと平成24年度は、小学生の授業“自然環境体験学習の場”としての整備も始まる。訪れた子どもたちが自然をからだで感じ、“気づく”感性と“わかちあいのころ”を育てて欲しいと願っている。

（花実の森整備プロジェクト 菅田 忠志）



環境未来館で3校が体験学習

環境未来館（西区）はビオトープ“未来の泉”を活用した自然体験学習を、23年度から小学3年生を対象に始めました。11月15日に西区木津小の63人が来館。スライド「木津の里地・里山散策ツアー」で事前学習して出発。顕宗仁賢神社では神社の伝承について勉強し、「この木、なんの木」や「目を閉じて耳をすませば」の体験プログラムで自然の音を体感しました。木津川に沿って散策。草木や昆虫、水田、段々畑などを観察しました。

午後は、ビオトープで水辺の植物を観察。仕掛けてあったモンドリを引き上げ、ドジョウ・メダカ・カワバタモロコ・ヤゴに触れながら、自然や生命の大切さを学習しました。子供たちからは、「ビオトープでドジョウやメダカをさわられてうれしくてよかったです。里山さんさくで小さなドングリや、かわいい実をひろえて楽しかったです」などの感想が聞かれました。

24年3月9日には北区南五葉小の50人が来館したがあいにくの雨天。スライドを見た後、「スゴロクとカルタで学ぶ神戸の野草」のゲームをして、資源リサイクルセンターと環境未来館を見学。午

後はビオトープに仕掛けてあったモンドリを引き上げ、ドジョウ・メダカ・カワバタモロコ・ヤゴ、ニホンアマガエルの子を観察しました。「雨がふって里山にいけなかったけど、色々なことができて楽しかった」と書かれたアンケートの感想を読んでスタッフもほっとしました。

24年度もすでに3校から参加申し込みがあり、新たな環境学習の拠点として踏み出そうとしています。（環境未来館・涌井岑治）

野鳥ガイド 改訂版を発売

『しあわせの村 バードウォッチングガイド』の改訂版3000部を発行しました。ルリビタキやコサメビタキなど16種を追加、計60種を掲載して村で観察できる主な野鳥をカバーしています。スズメやキジバト等の「ものさし鳥」をシルエットにして、野鳥の大きさが分かりやすい工夫をしており、野鳥と関わり深い昆虫や野草各11種も加えてミニ図鑑として利用できるようにしています。”わ”本部と村の宿泊館で200円で販売しています。村内散策にご利用下さい。（野鳥と自然観察会・茅中英一）

活動レポート



10年続けた歌の友愛訪問

私が所属している東灘区会では書道指導、歌の友愛訪問、ふれあい喫茶、囲碁・将棋・麻雀の指導、幼稚園での野菜・花作り・学級支援などさまざまなボランティア活動をしている。私は歌の友愛訪問で10年の節目を迎えた。ふれあい喫茶にも参加している。歌の友愛訪問では施設に入所や通所されている方々（ゲストさんと呼んでいる）に歌詞カードを配り、ナツメロ・童謡・季節感のある歌を持参したカセットテープの伴奏で一緒に合唱している（写真）。車椅子で体を動かし声をあげる人、マイク片手に堂々と歌う人、恥ずかしそうに歌う人…様々なゲスト約20～30人の大合唱である。旗を振りながら「六甲おろし」を歌い、最後に大泉逸郎の「これから音頭」を簡単な手足の運動（踊り）を交えながら大合唱して終了する。

ゲストさんの生き生きとした姿を見ることや「ありがとう」「また来てネ」と云って下さることで自分も元気づけられることを実感している。

（藤田 明弘・食文6期＝東灘区会）

興味津々？高齢者施設を見学

兵庫区会の有志20人で2月15日の例会後、みんなの関心が深い高齢者施設、「オリンピック兵庫」（兵庫区小松通）を訪問しました。館長さんの説明によると、ここでは3種類のサービスを提供しているそうです。

グループホームでは、認知症の方が少人数で暮らし、スタッフと一緒に食事を作ったり、散歩や買い物に出かけたり、普通の生活をしています。私たちは、ビーチボールを投げ合って「受けてよ!」「よいしょ!」などと遊んでおられる様子をほほえまし

く見学しました。

ショートステイとデイサービス部門もあり、特にデイサービスが印象的でした。?デイサービスは、スタッフと一緒に、ゆったりと1日を過ごす場所で、決められたプログラムはありません。お昼ご飯を作ったり、お風呂に入ったり、庭の手入れをしたり、歌や手芸などに取り組んだりしています。私たちが見学した時は、甘酒を作っている人、塗り絵を楽しんでいる人、編み物をしている人……。皆さん和気あいあいとして楽しそうでした。

私は以前やっていたボランティアで、入所者の皆さんが食事の準備を一生懸命にしておられる様子を見ています。こんな光景を区会のみんなにも見てもらったら、今後の参考になるかな?と思い、これからは施設訪問を企画したいと思っています。きょうの参加者からも「来てよかった。勉強になった」と好評でしたので、希望があれば他区の方にも紹介します。下記へご連絡ください。（宮城智子・音文2期＝TEL/FAX 521-3391）

大修理の姫路城を楽しむ



平成大修理中の姫路城を見ようと、私たち西区会員は昨秋、日帰りのバス旅行にでかけました。お孫さんも交え総勢24人。途中、ヤマサ蒲鉾で竹輪やカニ蒲鉾の製造工程を見学し、たくさんのお土産を買い込みました。

お昼はイチオシの懐石料理を楽しみ、メイン・プログラムの姫路城へ。天守閣最上部まで一気に上り、瓦が外された大屋根・新たに発見された漆喰の隠し窓など、ガイドさんの説明にびっくりしながら見て回りました（写真）。好古園では紅葉が美しい日本庭園を散策、歴史館ではウン百万円?もする数々の浮世絵原画に見とれ、感嘆した次第です。

この日は一万歩も歩き回り、運動も充分。実り多い秋の一日となりました。（西区会・ 堺寿代）

●区会の活動レポートをお寄せください。

ボランティアの心

大正琴との出会い

前田仁子（福祉11期・北区会）

私は小学生の頃のある時期、日曜日に教会に遊びに行っていました（家はクリスチャンではありませんでしたが）。牧師様からお聞きした話の中に、今も印象深く覚えていることがあります。〈人は、一生の内に必ず与えることと、与えてもらうことのバランスが取れているはずだから、人様のお役に立つことを何でもいいから見つけて挑戦しましょう〉というような話だったと思います。

けれども、平凡な人生を送り気づいた時には還暦を過ぎていました。そんな時、目にしたのが“再び学んで他のために”とキャッチフレーズのついたシルバーカレッジへの入学案内でした。ここに何か出来ることがあるかも知れないと思い、入学して出合ったのが大正琴でした。

音楽は得意でなかった私ですが、大正琴は楽しく、懸命に練習しました。初めてある施設にボランティアに行った時のことです。入所者から「大正琴って初めて聴いた」「一緒に歌えてすごく楽しかった」とうれしそうにお礼を言っ

ていただき、「そうか、大正琴でもボランティアが出来るんだ」と実感しました。

卒業後、グループ“わ”に入り、各地の施設を訪問しています。演奏を聴いて懐かしさのあまり涙される方、久しぶりにこの歌をうたったと喜んで下さる方、もう一度さっきの歌を弾いてとリクエストされる方。こんな時は、演奏者のようなとても嬉しい気分…。帰宅するなり、「もっと喜んでもらえる曲はないか」と楽譜を探し出して、練習に打ち込みます。

最近では、“わ”の出前講座で小学5、6年生に演奏を教えています。子供たちの音感の良さ、習得の早さに驚かされ、「もっと弾きたい」「もっと難しいのを教えて」と言われると、こちらも緊張して気を引き締めざるをえません。

ほんの少しでいい、ささやかでいい、私が出来るボランティアを続けよう。そして、いつの日かに、私も〈ボランティアの心〉を喜んで、お受けしよう—つくづく思う昨今です。

＝写真は2010年夏、国際展示場で演奏



●大地震…自分の身は自分で守る

「東南海・南海地震に備えて」をテーマに、グループ〈わ〉主催のスキルアップ講座が1月18日（ジョイラックデー）に学習室1・2で開催され、70人が熱心に聴講しました。講師は神戸市危機管理室主幹・小林伸一氏。内容はムービーの中にキャラクターが登場し質疑応答形式で、地震と津波のメカニズムを学ぼうというものです。

東日本大震災から10か月が経過し、その復興は容易ならざることがわかりました。津波によって原発の安全神話が完全に崩壊し、その収束を全世界が注視し、脱原発が国民的論争になっています。また、四国—西日本を震源とする南海・東南海巨大地震が、今後30年以内に70%の確率で発生することが予測されています。このような非常時には①自分の命は自分で守らねばならないこと、②被災者が多く、庁舎や公務員もほとんどが被災することから行政はアテにできないので各コミュニティで助け合わねばならないこと、③避難訓練や水・

食料・医薬品などの備蓄がきわめて重要であること—などを各自が日頃から肝に銘じておくことが重要です。

●コーロKSCが守屋さん追悼演奏会

混声合唱団コーロKSCは2月25日、一昨年夏に亡くなった指導者・守屋幸子さんの追悼コンサートを神戸文化ホールで開催。情感豊かなハーモニーで「アヴェ・マリア」などを歌い上げ、300人の聴衆を魅了しました。守屋さんは15年間にわたってコーロKSCを指導し、屈指の合唱団に育てあげたほか、親和中・女子高、甲南女子中・高でも合唱指導を続けていました。この日は、教えを受けた合唱団や指導者がそろって友情出演。守屋さん作詞・作曲の「震災15年・心のきずな」など十数曲を熱唱しました。

同合唱団は、4月15日（日）にも神戸文化ホールで第7回定期演奏会を開催。ビバルディの宗教曲や「落葉松」「カリソカ」「青い山脈」など十数曲を披露。リストのピアノ曲で締めくくりました。

カレッジだより



16期生370人が卒業

第16期生の卒業式が3月16日、カレッジホールで行われ、370人が卒業しました。今井鎮雄学長からは「福島原発の事故でわかるように、世界はリスクを考えつつ活動しなければならない〈新しい時代〉に入った。高齢化も進んでおり、高齢者が自らを支えていかなければならない難しい社会になる。カレッジで学んだことを生かし、新しい世界を築く先達として活躍してほしい。卒業おめでとう、ではなく、



ご苦労様、おめでとうございますと申し上げる」とはなむけの言葉がありました。

卒業証書は代表がホールで受け取り、各教室で卒業生に手渡されました。コース別の卒業生は健福84人、国際87人、生環64人、美工39人、音文35人、園芸27人、食文34人でした。卒業生からは物置1棟が記念品として贈呈されました。=写真は福祉コースの教室で卒業証書をもらう卒業生=「爽風」提供

19期生396人が入学

第19期生396人の入学式が4月6日午前10時30分からカレッジホールで行われ、今井鎮雄学長は「高齢化社会を迎え、新しい仕組みが必要だ。皆さんが先頭に立ってがんばってほしい」と励ましの言葉を贈りました。コース別入学者は健福82人・国際84人・生環71人・美工40人・音文39人・園芸40人・食文40人。

カレッジには緊張した面持ちの新入生が雨模様の中、次々と登校、新しい学園生活に夢をふくらませていました。入り口では東北支援募金の呼びかけもあり、クラス別に入学記念写真の撮影も行われました。午後からは各サークルの入部勧誘が一斉にスタート。パネルを見たり、先輩の説明に聞き入ったり、ロビーは終日、賑やかな雰囲気に包まれました。

私のボランティア日記

パソコン教室で 池田惇 (生15)

新長田旧二葉小で〈わ〉のパソコン教室が再開されたので、押しかけボランティアとして参加してみた。この日の受講者はパソコンに触るのが初めての男女5人。マウス操作もパソコン用語も分からず、初めは、顔も、手も、身体も固まった表情で苦労されていたが、講座の終わり頃には、顔がほころび、口もほぐれてきて、楽しそうだった。

あか抜けしない私の知識・技量・経験でも、初心者の方には役立つし、理解してもらえる様子を見ていると、何か達成感を感じ、奉仕することへの喜びを感じる。パソコンは、英会話と同じで、失敗を恐れることなく、繰り返し使って、慣れることが上達の秘訣。分からないからと途中で諦めずに挑戦し続けて欲しいと思う。

私がパソコン教室に参画するのも、パソコンに接する機会を維持することと、講師の指導の中から新たな知識を習得し、忘れていた技量を思い出すことに役立つと信じているからである。

グループ学習の合同発表会

16期生のグループ学習合同発表会が3月1日、カレッジホールで開催され、各コースの先輩、後輩たちも駆けつけ、終日、熱心に耳を傾けていました。発表は午前10時の音文専攻から始まり、休憩を挟んで16時の生環コースまで、順次行われ、講師からは的確なコメントがありました。ロビーでは27日から3月13日まで、美術専攻生の卒業作品が展示されました。各コースの発表テーマは次のとおりです。

【音文専攻】①和太鼓グループ②パーカッショングループ③全員合唱

【国際コース】①羽ばたけ！日本人②幸福立国ブータンの幸せの源泉を探る③太極拳と国際交流、

【食文専攻】①海藻から健康のパワーをもらおう②「精進料理」の歴史と心を尋ねて、

【健福コース】①人生最後の10年をどこで生きるか②「養生訓」に学ぶ③超元気印さんから学ぶ、

【園芸専攻】①トマト栽培②ごぼう栽培③ナス栽培

【生環コース】①「しあわせの村」②エコタウン”自転車をもっと活用しよう”③次世代のための新エネルギーを考える

▼カレッジ事務局人事 (4月1日) 【退任】田中伸一 【新任】佐々木信二=福祉振興協会から。

WA からのお知らせ



〈わ〉 会員1235人に

グループ〈わ〉の会員が、3月末で1235人となりました。毎年、100人ほどだった新入会員が180人と好調で、16期だけでも146人の入会がありました。東北支援活動に関心を持っていただけたのではないかと分析しています。

今年も東北支援活動を継続するほか、各サークルと協力して各種のイベント、学習支援活動などを幅広く展開します。卒業後の人生を更に豊かにするために、〈わ〉の仲間に加わって活躍しませんか。年会費は1人1500円（保険500円・地区会とサークルへの助成が各400円・広報誌送料200円）です。問い合わせは〈わ〉事務局（743-8101）へ。

クラブガイド2012年版発行

グループ〈わ〉は9区会・57サークルで多彩な活動をしています。どんな同好会やサークルがあり、どういう活動をしているのか、という声にこたえて、「クラブガイド 2012年版」（A4判20ページ）を発行しました。区会・クラブの現状、各委員会・プロジェクト・本部事業の仕組みなど、〈わ〉の活動を一覧にしてわかりやすく説明しています。新たなチャレンジのために、クラブの情報を共有するために、ご活用ください。各区会・サークルに配布していますが、ご希望の方は〈わ〉事務局までお越しください。

HP委員会のメンバー交代

グループ〈わ〉ホームページ委員会のメンバーが新年度から交代することになりました。新メンバーは、西山久雄（園16）、小畑浩昭（国16）、芦田義和（生15）南形徹（生14）。いずれも広報委員と兼務です。平成18年からホームページ作業を担当してもらっていた上田隆三氏（生8）北田正文氏（食7）を講師役に、3月から引き継ぎの研修を受け、4月から独り立ちしたものです。〈わ〉のHPは広報誌「ぎやらりー わ」、区会・部会報告、お知らせが主な内容です。

●『ぎやらりー わ』原稿募集

区会やサークルの活動レポート・ボランティア日記・エッセー・旅行記・写真・ご意見などをお寄せ下さい。500字～900字程度。HPにも掲載します。広報誌を読んでの感想、企画の提案も歓迎します。

●『ぎやらりー わ』59号は7月上旬発行です。

〈わ〉のメールアドレス=わ本部 group_wa@wa-net.jp

笑顔で〈わ〉を明るく

つぶやき

〈わ〉の事務所って暗いなあ。もっと明るい雰囲気にならないかしら？ 会社じゃないんだから、和気あいあいと仕事をしようよ…。

理事になった時、そんなことを感じて、この4年間、〈わ〉のお手伝いをしてきました。健康のこと・家族のこと・年金のこと…先々の心配・不安は尽きません。事故や暗いニュースが多い中、心の癒しはとても大切なことだと思います。音楽もいいし、お花もいいのですが、私は“笑顔の癒し”が一番だと思います。

明るいところに虫が寄ってくるように、〈わ〉を癒しのスペースにしたい—私が日頃、心にかけているキーワードはこんなことです。

- * 〈わ〉への来客には、やさしく声掛けを
- * 孫や子供たちにいつも言っている笑顔を実践！
- * 癒される受け身でなく、自分の好きなことをして自らを癒し、今日を楽しむ！
- * ステキな人（生き物）に興味、関心をもとう！
- * 仕事出来る幸せに感謝、感謝！

理事の皆さん、笑顔で明るく、をモットーにしましょうね。（事業担当・一森美代子）

編集後記



★東北支援活動をもう1年続けよう—グループ〈わ〉は思い切った決断をしました。物心両面でかなり負担になりますが、昨年の経験と会員の皆さまからの声援が背中を押してくれた感じです。被災地の方々や子供たちとの“顔の見える交流”をさらに広げたいと思っています。オールKSCの皆さまのご支援をお願いします。

★カレッジ北側の里山「花実の森」の整備が進んでいます。ベンチ・案内板・遊歩道…楽しいプランが少しずつ形になっていきます。四季が楽しめる体験学習の場に、魅力ある里山に…と、プロジェクトチームが張り切っています。小誌でも、写真や記事でその状況をお伝えしていきます。

★各々の小さき胸に火をかざし…ある歌人の一節が浮かんできます。志を貫いて日々ボランティアを続け、地域や施設から感謝されている会員はたくさんいらっしゃいます。そうした方々のごく一部ですが、今年度の表彰者が決まりました。皆さまの活動の励みになればと願っています。（広報担当・南形 徹）

グループわ 4～6月 イベント		
開催日時・場所	テーマと内容	問合せ先
4月28日(土)10:00～ しあわせの村	バードウォッチング 野鳥を泣き声で聴き分けよう	グループわ 743-8101
4月28日(土)10:00～ こうべ環境未来館	野草を探して食べてみよう 食べられる野草のマイスターめざそう	こうべ環境未来館 995-3196
5月5日(土)10:00～ しあわせの村芝生広場	わいわいストリート 昔遊び、動物風船、木工、ケナフ楽しもう	グループわ 743-8101
5月12日(土)10:00～ こうべ環境未来館	ウクレレでメロディを楽しもう 手づくりのウクレレで作曲家めざそう	こうべ環境未来館 995-3196
6月2日(土)10:00～ キリンピアパーク神戸	工場でエコ体験 ビオトープを見学、エコ工作を楽しむ	こうべ環境未来館 995-3196
6月4日(月)10:00～ 西神中央駅集合	春の森林浴ウォーキング いい汗かいて太山寺温泉で湯ったり	こうべ環境未来館 995-3196
7月以降の確定イベント		
7月1日(日)13:00～ FFPイベント広場	FFP七夕まつり 笹一杯七夕かざりを付けちゃおう	フルーツフラワーパーク 954-1000
7月28日(土)15:30～ しあわせの村芝生広場	しあわせの村まつり 食べて遊んでまつりを満喫しよう	グループわ 743-8101
8月5日(日)13:00～ 神戸市シルバーカレッジ	かえっこバザール おもちゃを交換し掘り出し物をゲット!	グループわ 743-8101
8月19日(日)10:00～ しあわせの村研修館	夏休み工作塾 みんな集まれ手づくり工作を楽しもう	グループわ 743-8101

わかりやすい グループわパソコン 講座

第2回は「ワードの実用講座」で、受講生を募集中です。

- ▼4月26日 5月3・10・17・24日(木曜日) 午後1時30分～4時30分
- ▼ 地域人材支援センター204号室 (JR新長田駅より西南西に約13分、旧二葉小学校跡) ▼募集定員 10人 (先着順)
- ▼受講料 8,000円(5回・15時間) (テキスト、USBメモリー代は別途実費)
- ▼内容 (1) 文書作成①ハガキ・便箋書簡の作製 ②簡単な案内状・イラスト・写真挿入、ワードアートの使い方 ③チラシの作成・レイアウトの原則、ページ罫線、テキストボックス、オートシェイプの使い方 (2) 写真を主体とした文書・アルバム・旅行記の作成ほか
- ▼使用するパソコンは Windows 7 (Office2010)
- ▼申込先 グループ〈わ〉Tel078-743-8101、FAX078-743-3830
- ▼第3回は「画像・デジカメ講座」(7月～8月=連続5回)を予定。

親睦ペタンク大会

グループ〈わ〉主催の親睦ペタンク大会が3月18日、村の球技場で開かれ、須磨太陽チームが昨年に引き続き優勝。2位はKSC17チームでした。2人1組で20チーム、40人が参加。午前中はリーグ戦、午後は1～4位グループのトーナメント戦が行われましたが、雨が降り出して泥んこの熱戦となりました。ボールがうまく転がらず、ショートしたり、オーバーしたり。「おもしろい試合やった」と参加者の弁。



花山梅林で卒業記念植樹

グループ〈わ〉花山梅林会（北区）が育てている梅林で3月8日、花山小6年生68人が卒業記念に100本の植樹をしました。今年の植樹場所はかなりの急斜面。スキー合宿を終えたばかりの子供たちが悪ふざけをして、ケガをしないか、と心配しましたが、先生方やシルバーリーダー15人のサポートで、無事に終了できてほっとしました。植樹を始めて7年。今では700本の梅がほぼ全山をうめつくしています。この日は、まだ満開には程遠い感じでしたが、いつの日か、赤・白の花と芳香が里山を包みこんでくれるでしょう。（取材と写真 広報・徳原尚世）



東北の子供たちから

東北の子どもたちから、グループ〈わ〉に嬉しい便りが続々と（写真）――。支援チームが昨年7月と10月に訪れた児童センターや幼稚園、神戸に招待した小学校などから、子どもたちのお礼の手紙と作品が、相次いで寄せられています。〈わ〉の派遣チームにメッセージを託してくれた神戸の児童館にも届いており、子供たち同士の交流も広がっています。便りを送ってくれたのは、石巻市東浜小・女川第四小・名取市ゆりが丘児童センター・名取が丘児童センター・増田保育所・登米市中田児童館・迫児童館・登米児童館などです。（東北支援チーム・古後健一＝健18）

トピックス



はなやぐ入学式

4月6日、中庭で新入生歓迎のパフォーマンス＝記事9面に